

6. ロシア極東における日本式リハビリテーション普及に向けた研修事業

社会医療法人 北斗

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

リハビリテーションが効果的に実施されていないがゆえにロシアでは日常生活に不便を強いられ、社会復帰ができない障がい者が多く、リハビリテーション分野では改善の余地がある。

【活動内容】

我々が20年以上にわたり培ってきた効果的なリハビリテーションをロシアで普及し、提供することにより、障がい者のQOLを高め、社会復帰を促す。日露両政府の医療分野における協力プロジェクトの1つとしてロシア極東投資輸出公社、沿海地方行政政府の協力のもと実施する。

【期待される成果や波及効果等】

本研修事業により、我々のリハビリテーションの理解者が増え、リハビリテーションの重要性の認識が高まり、障がい者の社会復帰を促すことでロシア経済にも寄与する。

<研修実施結果>

7月-9月 日本人専門家による講演・指導

- ・日本のリハビリテーション実技指導と講演

6月 現地専門家来日・視察（5名）

- ・当法人および他リハ施設の視察等

12月 現地リハ施設管理者研修（1名）

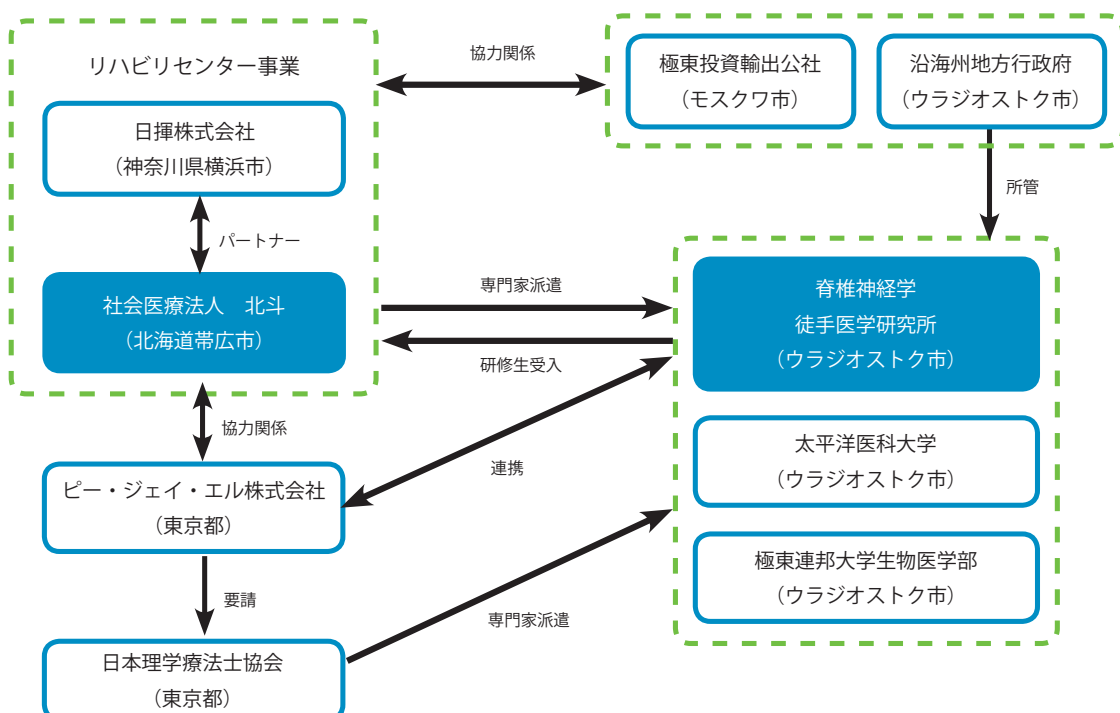
- ・当法人のリハ施設で研修

1-2月 現地医師、セラピスト来日研修受け入れ（計4名）

- ・当法人のリハ施設で研修

1-2月 現地医療通訳者研修（1名）

- ・当法人のリハ施設で実地研修



事業概要



社会医療法人北斗(帯広市)は日揮株式会社(横浜市)と共同で、ロシア極東ウラジオストク市に於いて日本式のリハビリテーションを展開するリハビリテーションセンターの開設を予定している。

事業化調査で、ロシアのリハビリテーションと日本のリハビリテーションには、個々の基本的な施術法に共通点があるが、その提供の方法に大きな違いがあり、効果的で十分なリハビリテーションが行われていないことが分かった。



リハビリテーションに関連するロシアの医療関係者にリハビリテーションの重要性を認識してもらうと同時に、日本式リハビリテーションの特徴や効果を知ってもらうことが重要であると考えた。



ロシア極東に於ける日本式リハビリテーションの普及に向けた研修事業についてご報告させていただきます。まず事業概要ですが、私ども社会医療法人 北斗はロシア極東ウラジオストク市で日本式のリハビリテーションを展開するリハビリテーションセンターの開設を予定しております。当事業に先立ちまして、事業性評価を現地で行いました。ロシアのリハビリテーションは非常に細分化されており、日本のような総合的なリハビリテーションが実施されておらず、残念ながらあまり効果が発揮されていないという現状です。特に脳卒中患者の麻痺状態の改善がほとんど見られず、皆さんが諦めている状態でした。そこで我々が蓄積した20年以上の実績を活かして現地でリハビリテーションを展開することに意味があるのではないかと考え、ロシア極東で医療事業に関心をお持ちであったプラント大手の日揮株式会社と共同でリハビリテーションセンターを立ち上げることになりました。最大の課題は、現地地かかに日本のリハビリテーションの特徴や効果を知ってもらうかということでした。また、現地の専門家にどのようにリハビリテーションを教えるか、非常に苦慮しております。言葉の問題以前にリハビリの認識が違いますので、なかなか言葉で日本のリハビリテーションの特徴を説明しても、医療関係者でも理解していただけない状況が続いておりました。

期間中に実施した研修事業

期間	場所	内容	参加者
2017年6月27日 ～7月2日	東京、帯広、札幌	現地専門家による日本のリハビリテーション施設等の視察	ロシア人専門家5名
2017年7月4日 ～7月8日	ウラジオストク	日本式リハビリテーションのデモンストレーションと講義	ロシア人医師等約15名
2017年9月19日 ～9月23日	ウラジオストク	日本式リハビリテーションのデモンストレーション	ロシア人医師、医学生等約30名
2017年12月5日 ～12月8日	帯広、横浜	リハビリテーション施設の管理者研修	リハビリテーション施設マーケティング担当役員1名
2018年1月13日 ～2月12日	帯広	リハビリテーション施設のセラピスト研修	セラピスト4名
2018年1月20日 ～1月27日	帯広	リハビリテーション施設の医師研修	神経内科医1名
2018年1月27日 ～2月3日	帯広	リハビリテーション施設の通訳者研修	日本語通訳1名

今回の研修事業を活用させていただき、この一覧に示す研修事業を実施しました。現地からの専門家受け入れが5件12名、日本人の理学療法士の現地への派遣が2件で延べ3名となっております。

中核となる現地専門家による日本のリハビリテーション施設等の視察

2017年6月27日～7月2日

日本で行われているリハビリテーションを言葉で正しく理解してもらうことは難しいため、ウラジオストクに於いてリハビリテーション分野の他、整形外科分野、神経内科分野で発信力のある医師等を日本に招き、日本で行われているリハビリテーションを自らの目で確かめることにより、理解を深めてもらう。

【研修参加者】

ベリヤエフ・アナトーリー	太平洋医科大学リハビリテーション学科教授、元学科長
コスティフ・ローマン	ウラジオストク公立第2病院 第2外傷外科部長
ナザレンコ・イリーナ	ウラジオストク公立第2病院 小児整形外科部長
アレクセエフ・セルゲイ	ウラジオストク公立第4外来クリニック 外傷センター長
ナザレンコ・ダリーナ	ウラジオストク公立第1病院 神経内科副部長

現地の中核となる専門家による日本のリハビリテーション施設等の視察を行いました。中核とは現地で発信力のある方です。リハビリテーションもしくは神経内科、整形外科のドクター5名に日本に来ていただき、当院をはじめとしたリハビリテーション施設を視察いただきました。

中核となる現地専門家による日本のリハビリテーション施設等の視察

視察先と概要	視察内容
順天堂東京江東高齢者医療センター(東京)	日本の保険制度、高齢者医療制度に関する講義 リハビリテーション施設の内見学
慶應義塾大学病院(東京)	BMI(Brain Mechanical Interface)、スマートリハに関する講義 がんリハビリテーションに関する講義 研究施設の見学、BMIの体験等
北斗病院・十勝リハビリテーションセンター(帯広)	脳卒中や人工膝関節後のリハビリテーションに関する講義 リハビリテーションセンターにてリハビリテーションの様子を視察
札幌医科大学(札幌)	ARリハビリテーションに関する講義 ARリハビリテーションの視察、体験等
北海道子ども総合医療・療育センター(札幌)	日本の療育システムに関する講義 小児リハビリテーション施設の視察
いとう整形外科病院(札幌)	整形外科専門病院のリハビリテーションの現状を視察 民間病院の運営と患者受入についてディスカッション

こちらが視察にご協力いただいた医療機関です。実際に日本で行っているリハビリテーションを見ていただくとともに、慶應義塾大学医学部のリハビリテーション教室、札幌医科大学ではBMIやARといったリハビリの最先端の研究を見学及び体験していただきました。非常に印象深い研修になったかと思います。

日本式リハビリテーションのデモンストレーションと講義①

2017年7月4日～7月8日

当法人の理学療法士2名がウラジオストクへ渡航し、現地リハビリテーション機関の協力を得て、日本式リハビリテーションのデモンストレーションと講演を実施。

実際のロシア人患者様に協力頂き、多くのリハビリテーション関係者に日本で行っているリハビリテーションを見て感じ、その効果を知ってもらうと同時に、リハビリテーションの重要性を認識してもらう。

【渡航した理学療法士】

氏名	役職	講演内容
小岩 幹	医療技術部副部長	脳血管疾患後と人工関節置換術後のリハビリテーション
林 達也	理学療法科科长	呼吸器疾患のリハビリテーション

7月に私どもの理学療法士がウラジオストク市を訪問しました。現地の協力機関にご協力頂き、実際にロシア人の患者様に日本式リハビリテーションの施術を実演すると共に、講演を行いました。スライドの写真は、現地のリハビリテーション専門家が集まり、私どもの理学療法士が患者様に行うリハビリを見ていただいているところです。3日間連続して患者様を施術し、その効果を目の当たりにしていただきました。

日本式リハビリテーションの デモンストレーションと講義②

2017年9月19日～9月23日

国立太平洋医科大学(ウラジオストク市)で行われた医療カンファレンスに於いて当院の理学療法士が日本式リハビリテーションのデモンストレーションを行った。

デモンストレーションでは実際のロシア人患者様に協力頂き、約30名の医師や学生を前に、40分間のリハビリテーションにより歩き方の改善を示すことが出来た。



【渡航した理学療法士】

氏名	役職	内容
小岩 幹	医療技術部副部長	脳卒中後の麻痺患者へのリハビリテーション

9月にも私どもの理学療法士が現地に赴き、国立太平洋医科大学で行われたロシア極東で最大の医療コンgresに参加しました。ロシア人患者様にご協力いただき、大学の大講堂で約40分間の施術を行いました。その40分間でも明らかに施術前後で違いがあり、医療関係者のみならず医学生に対しても広くアピールできたと思います。

リハビリテーション施設の管理者研修

2017年12月5日～12月8日

現地のリハビリテーション施設の管理者1名が来日し、我々が展開を予定している日本のリハビリテーションを理解することにより、正しい情報を効果的に現地で発信出来るようにする。

研修参加者：ラザレンコ・アナスタシア

JGC HOKUTO HEALTHCARE SERVICE 事務部長

研修場所：北斗病院(帯広)

十勝リハビリテーションセンター(帯広)

日揮株式会社(横浜)

研修項目：当法人のリハビリテーション施設のコンセプト

日本の医療制度、医療連携、保険制度

医療機関に於ける接遇

日本のリハビリテーション



また去年12月には私どものリハビリテーション施設で普及活動の最前線に立つマーケティング担当役員を1名、日本に招聘しました。リハビリテーション施設等を見学し、日本の医療制度、医療連携制度等を理解していただきました。また、リハビリテーションの現場を見ていただき、自国に戻っても自分の言葉でしっかりと日本のリハビリテーションを説明できるように研修を行いました。

リハビリテーション施設の医師・セラピスト研修

2018年1月13日～2月12日

現地のリハビリテーション施設で実際に我々のリハビリテーションを施術するロシア人セラピストに日本のリハビリテーションの基礎をしっかりと習得してもらうため、4週間にわたり当法人のリハビリテーション施設で研修を実施。

【研修参加者】

ハルトノフ・ドミトリー	元民間医療機関 徒手療法医
ポストリコワ・マリヤ	元公立小児病院 承認透析医、徒手療法医
コンバ・オクサーナ	元プロスポーツチーム チーム医
クズミヌイフ・アレクセイ	元公立小児病院 医療マッサージ師(看護師)
パハリョク・エレーナ	ウラジオストク公立第2外来クリニック 神経内科医 (本人の都合により研修参加は1月22日～26日)

2018年1月中旬から約4週間、私どものリハビリテーション施設で日本のリハビリテーションを実践するロシア人セラピストを対象に研修を行いました。ロシアでは日本の理学療法士が直接患者様に施術を行うことはできません。実際に施術を行うのはロシア人セラピストとなりますので、彼らをいかに教育し、彼らが

どれだけ効果的なリハビリテーションを実践出来るかが私達の事業の成否に繋がっていくこととなりますので、非常に重要な研修です。

リハビリテーション施設の医師・セラピスト研修

主な研修項目

- ・日本の医療制度、医療保険制度
- ・接遇マナー講習
- ・脳卒中の治療
- ・整形外科疾患の治療
- ・脳卒中後のリハビリテーション
- ・人工関節後のリハビリテーション
- ・リハビリテーション医の職域
- ・日本の理学療法
- ・日本の作業療法
- ・日本の言語聴覚療法
- ・チーム医療について
- ・症例検討



4週間の研修で行った主なテーマです。セラピストだけでなく、当院の神経内科医、整形外科医の協力も得て、リハビリの技術的なことだけでなく、接遇やマナー、患者様に対するアプローチ等も学んでいただきました。

事業の成果①

研修事業	成果
中核となる現地専門家による日本のリハビリテーション施設等の視察	研修後のレポートにより研修参加者が日露のリハビリテーションの違いや日本のリハビリテーションの特徴、効果を理解したことを確認。レポートには日本のリハビリテーションの優位性を実感したとの記述があり、患者へのアプローチや充実したリハビリテーション医療の提供体制、専門家の習熟度などに大きな違いを認識した。また、研修後は講習会や職場などで我々のリハビリテーションの普及に協力している。
日本式リハビリテーションのデモンストレーションと講義	日本の理学療法士による実際のリハビリテーションを見てもらい、その後に講演会で理論を説明することにより理解を深めてもらった。リハビリテーション実演の際にはボランティア患者にアンケートをとり全員から高い評価をもらった。受講者も含め参加者がリハビリテーションの日露の違いを明確に認識し、肯定的な評価をしていることから、その理解度は80%を超えるものである。

事業の成果②

研修事業	成果
リハビリテーション施設の管理者研修	3日間の研修により、日本の医療制度、医療連携制度、接遇マナー、日本のリハビリテーションの特徴と効果などを学び、これらを実践するリハビリテーション施設の運営に活かすことにより、同じく来日研修を行った医師やセラピストが実践する日本のリハビリテーションを広く効果的にアピールし、1日に30名程度の受入を目標として普及を図る。
リハビリテーション施設の医師・セラピスト研修	4週間の研修により日本で行われているリハビリテーションの基礎を学んだ。研修後の評価により各研修項目とも8割を超える理解度を得ることが出来ていることを確認出来た。 今回の研修事業で学んだ日本のリハビリテーションの基礎を活かし、更なる技術の向上を図り、当地のリハビリテーション施設で実践する。1日に6名以上の患者対応を目指し、効果的なリハビリテーションを必要としている地域住民のQOLの向上、社会復帰の促進を図ることにより日本のリハビリテーションを普及する中心的な役割を果たす。

今までの事業の成果をまとめました。まず中核となる現地専門家による日本のリハビリテーション施設等の視察については、レポートを提出していただき、どのような感想や印象を持ったかを報告頂きました。日本の充実した医療制度や保険制度に強い関心を持ち、その制度の中で実施されているリハビリテーションについて、技術的な事も含め、優位性を感じていただきました。彼らは、医療者の立場から現地の医療者に対して日本のリハビリテーションを語るという重要な役割を持っております。また、国立太平洋医科大学の教授も研修に参加しており、自らの講義の中で学生らに日本のリハビリテーションについて語っていただくと同時に、リハビリテーションセンターと国立太平洋医科大学との今後

の共同教育プログラム等の企画でイニシアチブをとる立場となります。

日本から理学療法士が現地に行った際は、延べ 50 名程の現地医療者に日本のリハビリテーションを見ていただきました。患者様が良くなっていく様を目の当たりにして、非常に良い印象を持っており、これからも協力関係を持っていただけたらと思っております。私どものリハビリテーションセンターで働くメンバーは、これから日本のリハビリテーションの普及の最前線に立つキーマンとなるメンバーになります。これからも学ぶことはありますが、今後、彼らが後継のリハビリテーションセラピストに指導出来るような立場になっていただけたらと思っております。

今後の課題

2018年4月にロシア極東ウラジオストク市にて日本のリハビリテーションサービスを提供するリハビリテーション施設の開業を予定。

引き続き日本のリハビリテーションの効果を現地の医療関係者や地域住民に周知し、ロシア極東のウラジオストクからロシア全土に向けて日本のリハビリテーションのアピールを継続する。

◆本事業で日本のリハビリテーションの特徴や効果を学んだ専門家との協力をさらに強化。

◆当法人の理学療法士が常駐するリハビリテーション施設に於いて日本のリハビリテーションを実践するロシア人セラピストの技術の向上。

◆リハビリテーション施設での市民講座、太平洋医科大学など教育機関での医療関係者や医学生を対象とした講演会を実施。



今後の課題としては、2018年4月にリハビリテーションセンターのオープンを予定しております。拠点ができますので、現地を中心に講義等を積極的に行って、引き続き日本のリハビリテーションの普及に努めていきたいと考えております。ご清聴ありがとうございました。